

「やわらかい鉄工所。」というユニークなコーポレートスローガンのもと、板金加工を手掛けるコンチネンタル株式会社。ものづくりを支える企業の一つとして着実に成長を続ける同社は、昨年6月にSDGs宣言を策定しました。SDGsへの取り組み・ものづくりの未来を支えるための取り組みなどについて、岡田俊哉社長にお聞きしました。



代表取締役 岡田 俊哉 氏

〈質問1〉SDGsに関心を持たれた経緯を教えてください。

SDGsとは、国連で採択された「Sustainable Development Goals」の略称であり、「持続可能な開発目標」とされます。このように聞くと、遠い世界のことに感じていましたが、よくよく考えると、事業を営むにあたり地域や社会、さらには世界に支えられていることに気がきました。

そこで、大きな目標を立てずとも、私たちの本業であるものづくりを通じて世界に貢献することはできる、あるいはできているのではないかと感じ、SDGsについて興味関心を深めました。

〈質問2〉SDGsへの取り組みについて、具体的にどのような取り組みを実施されたでしょうか。また、取り組みにおける所感を教えてください。

当社では、ものづくりを通じて世界に貢献するというコンセプトのもと、取り組みを行うこととしました。

そのために、ものづくりの根幹である人材についての取り組みを実施してきました。「ものづくり企業の中で1番のひとりづくり企業を目指す」ため人材の採用・育成を全社一丸で行い、また、老若男女・国籍問わず社員一人ひとりが活躍できるような労働環境を整えています。当社の将来にとっても、このひとりづくりは大きな武器となるであろうことを確信しています。

また、ものづくり人材の発掘のため、オープンファクトリーの開催を予定しており、社内のみならず、地域を巻き込んだ取り組みを行っていきたいと考えています。

〈質問3〉従業員へのSDGsの周知については、どのように取り組みたいとお考えでしょうか。

社内の全体朝礼での紹介や、当社ホームページへの掲載によって、周知を図りたいと考えてい

ます。一部のみではなく全社的な取り組みとすること、そして継続的な取り組みとすることが理想ですので、長期的な視野で周知・啓蒙を行っていきたいです。

〈質問4〉新たな取り組みとして、①オーダーメイド型プレ加工品、②リバースエンジニアリング製法を掲げておりますが、それぞれのどのような取り組みなのでしょう。

①木材のプレカットを金属向けにアレンジした「パイプ・鋼材のオーダーメイド型プレ加工品」

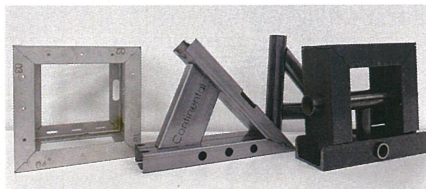
プレカットとは、「あらかじめ切断しておくこと」を意味する動詞 (precut) であり、特に住宅用木材で使われることが多い加工です。大工さんの数が減少したことから、経験の浅い作業でも簡単に住宅を建築できるシステムとして開発されたのがプレカットです。建築業界を救うために開発されたプレカットを金属加工業界向けにアレンジし、金属の「プレ加工品」として製造・販売します。

②最新技術を活用し「図面がない製品」を作り上げる「リバースエンジニアリング製法」

世の中には「実物はあるけど図面がない」「特殊形状のせいで図面にできない」など、図面がない製品がたくさんあります。

そうした製品を最新3D技術で測定し、図面を作成。その後、その図面をもとに製品をかたちにします。図面から製品、ではなく製品から図面という逆の流れで行うことからリバースエンジニアリングと呼ばれます。

これまで難しかった「図面がない製品」についても、最新技術を活用しながら、受注・製造を行います。



パイプ・鋼材のオーダーメイド型プレ加工品のサンプル

〈質問5〉質問4の新たな取り組み①②は、新技術の開発と伝統技術の承継という観点から、SDGsの目標（※SDGsでは、貧困や飢餓・健康や教育、安全な水等をテーマとする、2016年から2030年の15年間で達成するための、17の目標が掲げられている）と関連があるように思われ

ますが、貴社ではどのようにお考えでしょうか。

2つの取り組みは、「やわらかい鉄工所。」として、ものづくりの未来を支えるための取り組みです。そのため、目標9（※表題は「産業と技術革新の基盤をつくる」強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図ることをその内容としている）とも密接な関係があると考えています。

今、日本のものづくりの現場は危機に瀕しているといえます。後継者不在による町工場減少や職人不足、労働力人口減少によって、彼らによって支えられてきた職人技術や伝統技術が「消えゆく技術」となることが危惧されているからです。

そのような消えゆく技術は、今後の世の中にも必ず必要なものです。

そこで当社では、これら2つの取り組みを行い、職人技術や伝統技術を守り受け継ぐことで、日本のものづくりを支え、SDGsにも貢献していきたいと考えています。

〈質問6〉2030年において、貴社はどのような会社でありたいとお考えでしょうか。

昨年、当社はコーポレートスローガンとして「やわらかい鉄工所。」を掲げました。「やわらかい鉄工所。」は、「これまでのコンチネンタル」を「これからのコンチネンタル」へと繋ぐため、また、将来への指針として掲げたスローガンです。

当社の目標である「100年後も社会から必要とされる企業」となるためには、お客様からいただく、ものづくりの様々なニーズにお応えしなければなりません。

その実現のため、これまで30年の伝統と技術を生かしつつ、これまでの鉄工所にとられない「やわらかい発想力」、「やわらかい対応力」、「やわらかい創造力」を兼ね備えた、やわらかい鉄工所を目指すこととしました。

そのような会社に少しでも近づき、ものづくりを通じて世界に貢献できるようになっていきたいと考えています。

【企業概要】

名称：コンチネンタル株式会社  
本社所在地：富山県富山市水橋沖172番地  
設立：1991年10月1日  
代表：代表取締役 岡田 俊哉  
事業内容：金属鋼板を使用した工作機械カバー、電気機器の筐体、建材などの製作